

2022年度教育研究活動報告用紙(様式9(2022))

氏名	阿南 寿美子	職名	准教授	学位	修士(教育学)
----	--------	----	-----	----	---------

研究分野	研究内容のキーワード
幼児心理 幼児教育 保育者養成	社会的能力の発達 規範意識 いざこざ 保育観 子どもの学び 保育カンファレンス 実習記録

研究課題
<p>幼児期の対人交渉場面において、乳幼児が規範意識や対人関係構築などの社会的能力をどのように獲得していくのかについて考察する。子どもの遊びの中における学び(育ち)の捉え方について考察する。</p> <p>保育者養成校の学生が、2年間の学生生活を通してどのように保育者として保育観や援助観が育まれて行くのかを考察する。</p> <p>保育の質を向上するための保育カンファレンスのあり方について考察する。</p>

担当授業科目
<p>学校法人西南女学院 西南女学院大学短期大学部 保育科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の心理学(前期)(1年生)</li> <li>・保育内容「言葉」の指導法(後期)(1年生)</li> <li>・こどもの発達理解とあそび(複数担当教員)(前期)(2年生)</li> <li>・こどもの理解と援助(前期)(2年生)</li> <li>・教育実習指導(複数担当教員)(2年間通年)(1年生、2年生)</li> <li>・教育実習Ⅰ(複数担当教員)(通年・学外)(1年生)</li> <li>・教育実習Ⅱ(複数担当教員)(前期・学外)(2年生)</li> <li>・教育実習Ⅲ(複数担当教員)(後期・学外)(2年生)</li> <li>・保育・教職実践演習(幼稚園)(複数担当教員)(後期)(2年生)</li> <li>・こども学基礎演習(通年)(1年生)</li> <li>・こども学特別演習(通年)(2年生)</li> </ul> <p>学校法人扇城学園 東九州短期大学 幼児教育学科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの心理(前期)(1年生)</li> </ul>

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【保育の心理学】【子どもの心理】</p> <p>「保育の心理学」では子どもの発達の理解を目的として講義を中心に授業を展開した。その際、スライド等を使用し視覚的に講座内容を理解できるように配慮するとともに、学生のこれまでの保育体験や自身を振り返ることによって、具体的に場面を想起することができるように配慮した。</p>
<p>授業科目名【こどもの発達理解とあそび】</p> <p>共同担当教員の演習で乳幼児の「遊び」を実際に体験し、感じたことを講座ごとに記録・振り返りを行った上で、指導案の作成指導を行った。「遊び」に関しては、現役の幼稚園園長により、集団遊びや身近な素材を使った遊び、ルールのある遊び、わらべうた遊びなど子どもの発達や遊びの展開方法を中心に授業を進めてもらい、それを受けて講義の中で再度、遊びの留意点や子どもへの配慮などについて学生と考察しながら、指導案を作成する中で、実践に向けての取り組みを行った。</p>

<p><b>授業科目名【保育内容「言葉」の指導法】</b></p> <p>幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を基にして、乳幼児期の言葉の発達や保育者の援助についての理解が深められるように配慮した。また、言葉の発達を促す児童文化財についての解説を行ったうえで、絵本・紙芝居・ペープサートなどの実践を行いながら、実際の保育において実践できるような取り組みを行った。</p>
<p><b>授業科目名【こども学基礎演習】</b></p> <p>保育に関する基礎的理解を深められるように、壁面構成やカプラ制作などの取り組みを行った。前期は特に学生生活に慣れること、他者と協同する力やコミュニケーション能力を高められることを目標に個別面談を実施し。また、話し合いでは教員も積極的発言を行いながら学生間の仲が深められるように配慮した。後期は、ゼミ長・副ゼミ長を中心に学生が中心となって話し合いを行い、学生自らが考え、作り上げられるように教員は主に学生の活動を見守りながら進められるように配慮した。また、実践に向けて意欲が高められるように2年ゼミ生が行っている喜久屋書店でのおはなし会を見学する機会を設けた。</p>
<p><b>授業科目名【こども学特別演習】</b></p> <p>保育に関する実践的スキルを高められるように、ゼミ活動を展開した。具体的には、保育科えほんのへや及び喜久屋書店（セントシティ7階）における“おはなし会”の実施、合成染料やアクリル絵の具を使用しているTシャツ染め、壁面構成、キャンドル製作、ハーバリウム製作などである。準備を含めて学生を中心に進めることで、協同性や責任を持った行動ができるように配慮した。また、地域の保育園が園外保育等で訪問する施設（スペースLABO・いのちのたび博物館・到津の森公園）を訪れ、保育者としての視点が深まるように施設の方に解説をしていただきながら見学した。</p>
<p><b>授業科目名【保育・教職実践演習（幼稚園）】</b></p> <p>様々な角度から保育をとらえる視点が育まれるように、現場保育者の実践事例検討を行った。また、模擬保育では、これまで授業や実習を通して学んだことを活かしながら、2人1組で指導計画を作成し、準備・実践までを行った。子ども役は保育者が要求する年齢の子どもを演じるために、子どもの姿を表現することが必要になる。観察者は客観的に保育全体を観ることが必要になる。これらを通して、学生自に保育者としての意識が高まるように配慮した。また、ICTを用いたドキュメンテーションオン作成を通して、保育を保護者に伝えるためのスキルを高められるように指導した。</p>
<p><b>授業科目名【教育実習指導】</b></p> <p>事後の指導において個人指導として個別面談、全体指導として報告会を行った。それにより他者の学びを自己と比較することによって個人の学びをより深め、課題を見出し次回につなげることができるようにした。また、事前指導においては教材発表の時間を設け、子どもたちへの提示の仕方等も含めての指導を行った。実習前の設定保育に関する指導講座を増やし、実習時に保育者の援助への捉え方が主体的になるように配慮した。</p> <p>報告会は1、2年生合同で行い、2年生よるスライドを用いた発表を中心に学生同士の学び合いがなされるよう取り組みを行った。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本保育学会	会員	2012年～（現在に至る）
日本保育者養成教育学会	会員	2018年～（現在に至る）
日本乳幼児教育学会	会員	2018年～（現在に至る）

2022年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
1. 保育カンファレンス研究の現状と今後の展望	共著	2023年3月	西南女学院大学紀要VOL27	保育カンファレンス研究の現状を把握し、今後の展望を見出すことを目的とした。そのために、保育カンファレンスに関する先行研究について「保育カンファレンスがどのように行われているのか」を検討した。その結果、保育カンファレンスの参加者、用いられる資料の多様化が進んでいることが明らかとなった。今後の展望として、インフォーマルな保育カンファレンスの検討が必要であること、園外も含めた多様な職種の人たちと協働した保育カンファレンスの検討が必要であることが提起された。 阿南寿美子・島田知和・田中洋
2. 保育者養成課程における援助観の縦断的調査	共著	2023年3月	西南女学院大学紀要VOL27	保育者養成教育や学外実習が援助観の育成にどのように影響しているかを検討した。短大保育科在学生を対象に、2年間に4回の質問紙調査を実施し援助規範意識を測定した。その結果、入学時の援助規範意識の特性で2群に分けることができた。実習前後の援助規範意識について安定群と変化群が見出された。変化群は安定群に比べ、入学時の返済・自己犠牲・弱者救済規範意識は高く、交換規範意識は低かった。変化群は、の養成課程で専門職としての援助規範を学び、実習を経験することで、安定群の援助規範意識に近づく傾向が示された。 笠修彰・命婦恭子・阿南寿美子・篠木賢一・末寄雅美
3. 保育者の資質としての運動指導観と遊び環境への理解の変容 —2年間の養成課程の学びと実習を通して—	共著	2023年3月	西南女学院大学紀要VOL27	短期大学生が養成教育の中で運動指導観と遊び環境を理解する能力を身につけ変容させていく過程と各々の資質変容との相関および保育観形成との関連について明らかにし、資質形成を効果的に行う保育者養成カリキュラムについて考察を行った。その結果、運動指導観と遊び環境への理解には明確な相関は見られず、運動指導観は1年次には変化が無く2年次に低下すること、遊び環境への理解は入学時に理解が低い学生は進級時に理解が高まるということ、子ども中心保育観と関連して高められるという結果が得られた。 篠木賢一・末寄雅美・命婦恭子・阿南寿美子・笠修彰
(翻訳)				

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表) 1. 保育者養成における実習日誌に関する考察 Ⅱ—保育現場へのヒアリング調査から見えてきたもの—	共著	2022年5月	日本保育学会第75回大会(ポスター発表)	保育実習で学生が作成する実習日誌については、時系列型の日誌が中心となっているが、現在、様々な新しい様式への提案がされている。そこで、本研究では、新しい日誌様式を作成するにあたり、現場保育者が現在の様式に抱いている必要性や指導時の難しさなどをヒアリング調査した。その結果、現在中心になっている時系列式は必要であり、その作成方法を養成校として指導することが必要であること、新様式を用いる際は、学生だけでなく現場保育者にも説明が必要であることが示唆された。 島田知和・阿南寿美子・脇信明・上原真幸・金子幸・末寄雅美・藤本朋美・古林ゆり

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者( )内は学外者	交付決定額 (単位:円)
外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考
社会における活動等			
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等	
九州保育者団体合同研究集会	北九州部会副委員長 分科会運営委員 第50回福岡集会副実行委員長	2012年4月～現在に至る 2016年～現在に至る 2019年～現在に至る	
北九州市児童福祉事業第三者評価事業	専門委員	2016年4月～現在に至る	
NPO法人あゆみの森共同保育園 社会福祉法人喜久茂会(ふたば保育園)	第三者委員 評議員	2018年1月～現在に至る 2021年6月～現在に至る	
北九州市社会福祉協議会キャリアアップ研修会	講師	2021年9月15日	
北九州市児童福祉事業第三者評価事業評価基準見直しプロジェクト	委員	2022年4月～現在に至る	

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

教務委員会 副委員長 (2020年4月～現在に至る)

入学試験会議委員 (2014年4月～現在に至る)

西南女学院大学短期大学部附属シオン山幼稚園運営委員 (2016年4月～現在に至る)

認定絵本士資格講座責任者 (2018年～)

2022年度ガイダンス等 (2回) 他